

真空管グラフィックイコライザー・キット LXV-OT9を組み立てる

今回もシリーズ同様、使用する工具はプラスドライバー（大、小）のみで誰でも簡単に確実に作れるはずだ。本キットの要、プラスドライバーはしっかりとしたものを用意したい。

内容物

- ①シャーシ（天板）
- ②シャーシ（底板）
- ③シャーシ（フロントパネル）
- ④シャーシ（リアパネル）
- ⑤完成基板
- ⑥真空管（12AU7）
- ⑦基板固定用リベット（3個）
- ⑧ゴム脚
- ⑨アース用ワッシャー
- ⑩スイッチノブ
- ⑪ネジ小（イコライザー固定用6個）
- ⑫ネジ大（シャーシ及び端子類固定用14個）
- ⑬基板上アースネジ
- ⑭ACアダプター

必要なもの

・プラスドライバー

（本キットはタッピングネジを採用しています。刃先がしっかりした、力を入れやすいドライバーをご用意ください。）

・精密プラスドライバー

・ラジオペンチ

（製作には必要ないが、改造などで基板からリベットを外すときにあとと便利）



※弊社の組立サービスは一切行っておりません。必ず自分で完成させてください。
※本キットの保証は、購入日から1年とさせていただきます。レシートなどの購入履歴を必ず保管してください。購入したら、お早めに内容・動作確認をお願い申し上げます。

組み立てる前に必ずお読み下さい。

安全上のご注意 （真空管キットLXV-OT9、付属ACアダプター）

- 付属ACアダプターは日本国内専用です。日本国内以外では使用しないでください。
- 組立が終わるまでは、絶対にACアダプターを接続しないでください。
- キット添付以外の部品は、ご使用にならないでください。
- 必ずケースに入れた状態でご使用ください。ケースなしでのご使用は、事故や感電の危険があります。また、お子様の手に触れないようご注意ください。
- 真空管は使用中に高温になります。誤って手を触れるとやけどの危険があります。また水滴等の液体がかかると破損する恐れがあります。
- 組み立てられたキットに対する保証はありません。
- 付属ACアダプターは本機専用です。他の機器には使用しないでください。また、付属のACアダプター以外は使用しないでください。
- 本機DC IN端子へのプラグ抜き差しは、必ず電源スイッチを切り、ACアダプターをコンセントから抜いた状態で行なってください。
- 外出時や長期間ご使用にならない場合は、ACアダプターをコンセントから抜いてください。

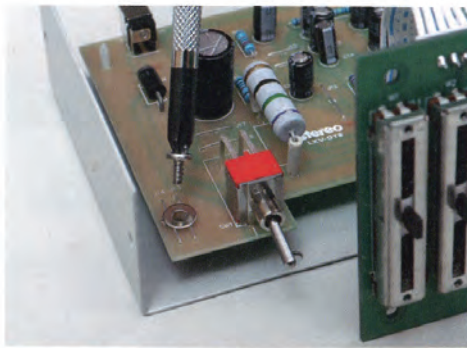
●警告

ACアダプター

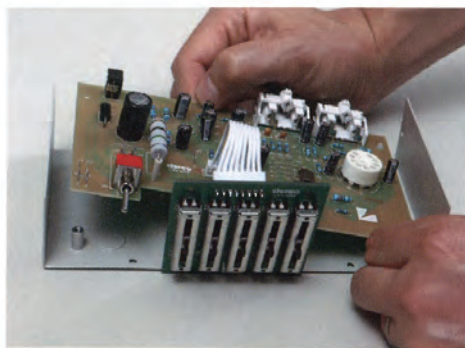
- 本機の電源スイッチを切っても、電源からは完全に遮断されません。そのため、電源コンセントの近くに設置し、容易にACアダプターをコンセントから抜くことができるようにしてください。
- 万一、煙が出ている、変なにおいや音がするなど異常のあった場合は、ACアダプターをコンセントから抜いてください。そのまま使用すると火災・感電の原因になります。

キットの取扱について

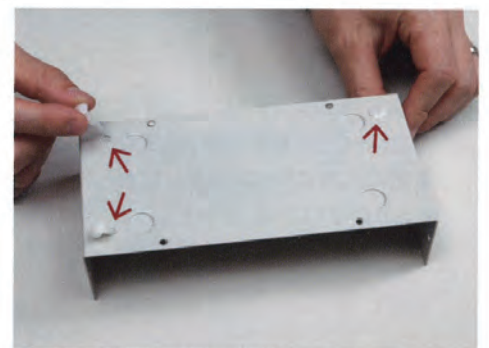
お客様御自身がこのキットを制作され使用する場合は、部品選定や構造については、お客様が組み立てられても性能を満足するように考慮しています。組立上の注意をよく確認して安全な製品を製作されるよう、お願いいたします。



3 固定した完成基板⑤の左手前、ジャンパー線の上にアース用ワッシャー⑨を置き、アース用ネジ⑬で締める



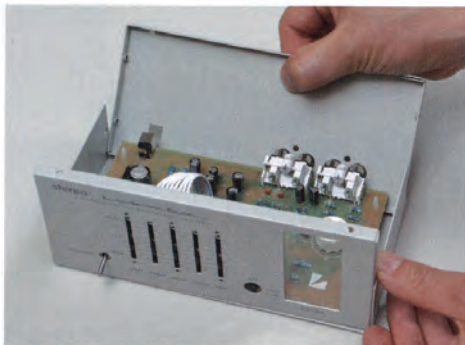
2 完成基板⑤をシャーシ底板②に差し込んで固定する。正面左手前側はアースとなるので、向きに注意



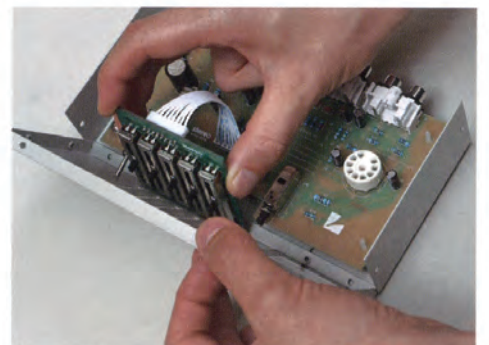
1 シャーシ底板②の外側から、固定用リベット⑦を3カ所カチッと音がするまで奥に差し込む



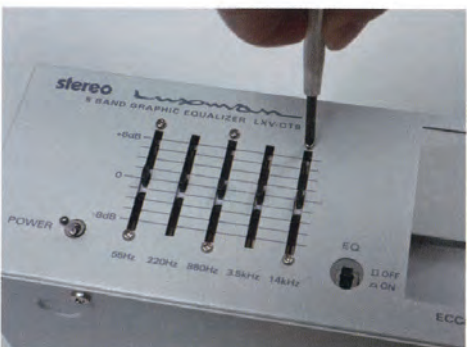
6 シャーシの天地をひっくり返して4点をネジ⑫で垂直に力を入れながら仮締めする



5 リアパネル④も同様に端子に合わせて垂直に立てる



4 基板⑤から出たイコライザー部、スイッチとフロントパネル③を合わせて垂直に立てる



9 フロントパネル③から出たイコライザー部を内側から手で抑えながらネジ小⑪を、精密プラスドライバーで締めて固定する



8 リアパネル④のRCA端子を内側から手で抑えながらネジ⑫で2カ所締めて固定する



7 サイド4カ所もネジ⑫が真っすぐに入るよう力をかけて仮締めする



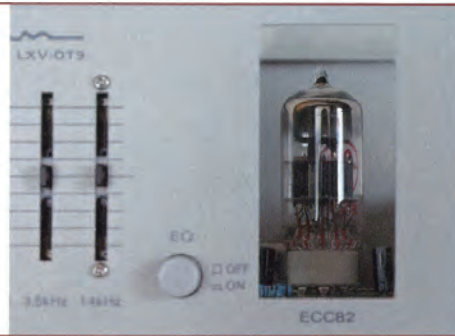
タッピングネジの締め方

本キットは、ネジでシャーシに溝を切っていくタッピングネジを採用しています。最初はネジの進行方向に体重をかけて力を加えながらじっくりと回して締めてください。

右に回して締め、堅くなったなら少し左に回して緩めてから、再度右に回して締め込む動作を繰り返すとうまく締められます。

100円ショップなどのドライバーでは、刃先が潰れる可能性があります。ホームセンターなどでしっかりしたドライバーを選んで、製作に臨んでください。

真空管はソケットとピンの隙間がなくなるまでしっかりと奥まで挿入してください。慎重に左右に少しずつ振りながら押し込むと入りやすいです。接続がしっかりされていないと、音が出ないなどの症状がおこります。



10 スイッチノブ⑩を差し込む



13 シャーシ底板の窪みに合わせてゴム脚⑧を貼りつける



12 シャーシ天板①をかぶせ、ネジ⑫で4カ所を仮締めし、最後に全てのタッピングネジを本締めする



11 真空管⑥をソケットにピン位置を合わせて奥まで差し込む



14 ACアダプター⑭を差し込んで電源スイッチ (POWER) を入れ、照明ランプが点灯したらキットは完成。さっそく接続して動作確認してみよう

●再生の手順

- ・接続は次のページを参照に確実にこなしてください。
- ・LXV-0T9の電源を先に入れてから、アンプの電源を入れて下さい。
- ・電源 (POWER) のオン/オフ、イコライザー (EQ) のオン/オフ切替は、ボリュームを最小にしてから行ってください。

モニター機能搭載アンプ接続例

モニター機能搭載モデルでは、モニター機能をオンにするとLXV-OT9を通した音を楽しめ、通常の入力をセレクトすれば、今まで通り使用できる。接続は少々複雑だが、慣れてしまえば問題ない。



配線写真。プレーヤー（写真右上、今回の例ではFMチューナーLXV-OT8）は通常通り、アンプの入力へ。アンプのREC OUTとLXV-OT9 (INPUT)、アンプのMONITORとLXV-OT9 (OUTPUT) をRCAケーブルで接続



●REC OUT、MONITOR機能搭載モデル接続例
プリ・メインアンプ ラクスマンL-505fとLXV-OT9

ケーブルを接続したら、入力セクターはREC、RECセクターはプレーヤー（チューナー）の入力ポジションを選択すると、LXV-OT9を通した音を楽しむ。RECセクターがないモデルでは、入力セクターは再生ソースを選択し、モニタースイッチをオンにして再生。REC OUT オン/オフ切替可能モデルでは、REC OUTをオンにする



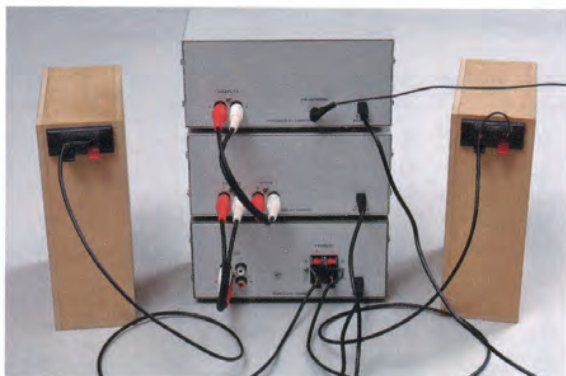
※モニター機能の有無は、ご使用のアンプの取扱説明書などを確認してください



LXV-OT9とREC OUT/MONITOR搭載アンプの接続写真

モニター機能がないアンプとの接続方法

近年のアンプには、モニター機能が省略されているモデルが多い。モニター機能がないアンプの場合、ソース機器とアンプ間に接続することになる。その場合、イコライザーのオン/オフにかかわらずLXV-OT9が通った音になる。



接続は、プレーヤーであるLXV-OT8の出力をLXV-OT9の入力に接続。LXV-OT9の出力をアンプLXV-OT7の入力へ接続。常にLXV-OT9を通した音が再生される



●REC OUT、MONITOR機能非搭載モデル接続例
FMチューナーLXV-OT8（上段）、グラフィックイコライザーLXV-OT9（中段）、プリ・メインアンプLXV-OT7（下段）